

日本点字事情 かわら版

横浜市立盲学校

点字研究部

2000年6月28日発行 NO.27

文責 道村静江

『日本点字表記法 2001年版』改訂原案骨子 part 2

6. 現行では、外国語引用符の記述はほんの少しでした。でも、最近では日本文中に英単語などがよく使われる傾向から、外国語引用符 ⠠ * * ⠠ を積極的に使いましょう！という動きが出て、その使い方の注意が載るようになります。アルファベットを書き連ねるといふ記述感覚を改め、外国語引用符を使うと内部には外文字の前置がいらなくなりますので、大文字と小文字の区別だけでよく、英文を書いているような感覚になりますから、どんどん使いましょう。だけど、外国語引用符の前後のマスあけが問題となることを覚えておいてください。

「一続きに書き表すべき1語中では、外国語引用符の前の仮名とは続け、後ろの仮名とは第1つなぎ符をはさんで続けて書き表すことを原則とする。なお、外国語引用符の閉じ記号の後ろに助詞や助動詞がくる場合には区切って書き表す。」

7. ホームページやEメールのアドレスなどを表す場合、どう書いているのか困りますよね。それもちゃんと載るようになります。

「情報処理用点字のナチュラル表記を用いる」とありますが、これはどんなものかはまた勉強する必要があります。

例を参考にしてみると、まず内部が情報処理用点字で書かれていることを示す囲み符号(⠠⠠ * * ⠠⠠)で前後をくくります。E-mailは単なる英単語ですから外国語引用符でくくり、その後を1マスあけて、次の情報処理用囲み符号と区別しています。

「:」は⠠⠠を使います。ただし、ホームページのhttpの後の「:」はこれを使いますが、E-mailのあとの「:」は、説明の小見出し符的に使っているため、情報処理用点字の: (⠠⠠)は使いません。ところで、この記号は日本文中では第2小見出し符として使われているものです。知っていましたか？ですから、こだわればE-mailの後に第2小見出し符として * * ⠠⠠ を使いたくなるかもしれませんが、情報処理用と紛らわしいのでここでは我慢するということでしょう。

